

小学校4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

(京都市立凌風小学校を想定)

奈良教育大学国語教育専修 3 回生

吉岡 優来

1. 単元名 自分の地域を守ろう! 京都市のくらし

2. 単元の目標

○ハザードマップやフィールドワークから自分の地域の防災の現状を知り、防災意識を高めることの重要性について理解することができる。 [知識及び技能]

○学習の過程で学んだことを活かして地域を災害から守る「〇〇町ハザードマップ」を作成するために、自分たちができることを考えたり、発信したりすることができる。

[思考力・判断力・表現力等]

○ゲストティーチャーのお話やフィールドワークで得た情報を活かしながら「〇〇町ハザードマップ」を通して防災意識を高めるために、自分たちにできることを意欲的に行動しようとしている。

[主体的に学習に取り組む態度]

3. 単元について

(1) 教材観

本学習では、「もしものときにそなえよう」(光村図書 国語4はばたき)の学習活動と、「自然災害から命を守る」(日本文教出版 小学社会4)のをもとに作成した。「もしものときにそなえよう」では、自然災害・自然災害への備えについて知っていることを出し合い、「大雨」「津波」など、大きなテーマを選び、その中から特に詳しく知りたいことを決める。そして、さまざまな本や資料、インターネットを活用して情報を調べ、どの備えるか、文章でまとめていく。自然災害についておきた場所や被害を知りその備えについて学習しているため、本単元で扱う風水害について理解している。「自然災害から命を守る」では京都市の過去の自然災害や備えについて調べ学習を行っている。本学習では、ハザードマップを使用することで、避難経路を可視化したりフィールドワークや学習活動の際の例になるようにする。また、ハザードマップの地図を見つつ、自身が住む町内ではどのような問題があり、どのように備えていくのかを考えさせる。本校がある南区は、鴨川という大きな河川があり、氾濫するともし3~5m浸水する場所が多く、校区の一部は1.7Mほど浸水する可能性がある。浸水の可能性が大きい地域だからこそ、京都市では「まるごとまちごとハザードマップ」という、浸水の深さを示す掲示を店や電柱にする取り組みを行っている。また、空き家問題も深刻であり、倒壊の恐れがある地域でもある。しかし、京都市のハザードマップにはそれ等の情報は掲載されていない。そういった課題に気づき、身近な家族や町内の人が備えるため・避難するために役に立つハザードマップは何か考えながら自身の町内に向けた「〇〇町ハザードマップ」を作成する。本教材を扱うことで、自分たちの地域の防災について知ったり危険なところはないか考えたりすることができ、自分や

身の回りの人の安全を守るとともに、地域貢献や自分達と地域の人々と協力する意識を育成することに生かしたい。

(2) 指導観

第一次では、国語科や社会科で行った学習を振り返り、風水害によって洪水や河川の氾濫による浸水、家屋の倒壊があるということを確認する。加えて、京都市や他の地域のこれまでの河川の氾濫について知り、風水害の危険さや現実感を自分事として考えさせ、地域を守るために備えることが必要であると示す。

第二次では、校区である京都市南区のハザードマップを見て、自分たちの地域の状況を知る。自分たちの家や避難場所を確認するが、実際に鴨川が氾濫したらハザードマップに記載されている情報だけで安全に避難できるか、町内の小さい子どもからお年寄りまでに分かりやすいマップであるかどうかを問いかけ、現在のハザードマップに追加して、町内の人々に有効で分かりやすい「〇〇町ハザードマップ」を作成する動機付けをし、批判的に考える力を育成したい。また、京都市が設置している「まるごとまちごとハザードマップ」を設置した理由や設置してどのような効果があったのか・期待しているのか、区役所の職員の方に話しを伺い、児童がハザードマップに追加する情報を考える際の参考にする。洪水に備えるためにはどのような情報が必要か、社会科で調べたことも思い出しながら考え、それをもとに町歩きをして調査する。

第三次では、実際に見たことをもとに、自分なりのハザードマップを作成する。完成したハザードマップは、どのように拡散して地域に知らせたらよいかを考えることで地域貢献の意識づけをした。また、ハザードマップを地域においてもらえるように説得できるような発表をしたり、伝達方法を工夫したりすることで、地域を協力するという意識もさせ、自分ごととしてとらえることができるように促したい。

(3) ESD との関連

○本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

・批判的に考える力（クリティカルシンキング）

ハザードマップを確認することで、自分自身や地域の人々にとって活用しやすいものであるか考えることができるようになる。

○本学習で変容を促す ESD の価値観

・責任性

地域で行われている活動を知ったり、自分自身や地域の人々が見やすいハザードマップを作成したりすることで、自分自身も地域の一員であるという意識や、地域貢献をするという責任性を育む。

○達成が期待される SDGs

11 住み続けられるまちづくりを

17 パートナーシップで目標を達成しよう

4. 単元の評価規準

ア 知識・理解	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>①自分の地域の防災の現状を知り、防災意識を高めることの重要性について理解している。</p> <p>②聞いたり、調べたりしてわかったことをまとめたり発表したりする技能を身に付けている。</p>	<p>①身近な地域の防災についての問題を発見している。</p> <p>②地域を災害から守るハザードマップを作成するために、自分たちができることを考えたり、発信したりしている。</p>	<p>①風水害や地域の防災について関心を持ち、意欲的に調べたり、自分にできることを考えたりしている。</p> <p>②ハザードマップづくりや発表を通して、地域の安全のために自分ができるところをしようとしている。</p>

5. 単元の指導計画(全8時間)

	学習活動	指導上の留意点	評価基準
一次 1時間	<p>1. 風水害について振り返る。</p> <p>①災害の種類や被害を知る。振り返る。</p> <p>2. 京都市の過去に起きた自然災害について知る。</p> <p>①昭和10年の鴨川氾濫の被害【写真】</p> <p>②嵐山桂川の洪水【動画】</p> <p>③上津屋橋(流れ橋)【2023年8月15日の台風7号の被害写真】</p>	<p>○国語科や社会科の授業で行った調べ学習で調べた内容をもとに全体で振り返りをする。</p> <p>○自然災害を「風水害」に限定する。</p> <p>○災害の怖さや、被害の状況を見て、感じたことや気が付いたことを聞く。</p> <p>○過去に京都府で災害の被害があったということを写真や動画を見て実感させる。</p> <p>○今後、大きな災害が起き、自分や身近な人、身近な場所が被害にあうことを示す。</p>	<p>ウ① <u>観察</u></p> <p>ア① <u>観察</u></p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>めあて: 自分たちのまちを災害から守るためにそなえよう!</p> </div>		
		<p>○「自分が住む京都市で災害が起きた時、自分や地域の人、場所を守るためにはどんなことを備えることができるかな。」</p>	
二次	<p>1. 京都市南区の災害について調べる。</p> <p>①班分け</p> <p>同じ避難所になる地域ごとに班員を</p>		<p>ウ① <u>観察</u></p> <p>ア①</p>

4 時 間	<p>分ける。</p> <p>②京都市の風水害のハザードマップを確認する。(4~6人班活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校、班員の家にしるしをつける。 ・紙面に示されている自分たちの地被害を読み取る。 ・避難場所や経路を確認する。 	<p>○京都市防災ポータルサイトのハザードマップを使用する。</p> <p>○浸水の深さや倒壊の可能性などを読み取る。</p> <p>○「避難するとき、このハザードマップの情報だけで身を守ることはできるかな」</p> <p>○「自分の町内についてはわかるかな」</p> <p>○「お年寄りや小さい子どもにとっては見やすいかな」</p>	<u>ノート</u>
めあて:「〇〇町ハザードマップ」をつくろう!			
	<p>2. 「まるごとまちごとハザードマップ」について知る。</p> <p>ゲストティーチャーとして南区役所の防災担当の方のお話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置の経緯 <p>3. 「〇〇町ハザードマップ」を作成する際に追加したい情報を考える。</p> <p>例)・「まるごとまちごとハザードマップ」がある場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難経路 ・倒壊の危険がある家 ・持ち物 ・避難するときの服装 <p>4. 班ごとに町内を歩き、5で考えた情報について現状を調べる。</p>	<p>○ハザードマップを「見える化」した理由や避難に必要な情報が何かを知る。</p> <p>○ゲストティーチャーのお話を参考に洪水警報や避難指示が出た場合、入手出来たらよい情報について考える。</p> <p>○自分が家から避難するときの行動を想像しながら考える。</p> <p>○日頃からどのような意識が必要か考えを促す。</p> <p>○保護者や地域のボランティアの方、ゲストティーチャーの方に班についてもらい、違う世代から災害が起きた際、危険だと感じることを聞く。</p>	<p><u>ア②</u></p> <p><u>ノート</u></p> <p><u>ウ②</u></p> <p><u>ノート</u></p> <p><u>ア①②</u></p> <p><u>観察、ノート</u></p>

<p>三 次 1 時 間</p>	<p>1. 「〇〇町ハザードマップ」を作成する。 ①町内を歩いて気が付いた点を話し合 う。 ②地図を書き必要な情報を追加する。 (個人作業)</p> <p>2. 「〇〇町ハザードマップ」を見てもら うためにどうすればよいか考える。 例) ・町内の掲示板にはる ・配布する ・区役所においてもらう</p>	<p>○「誰が」見るハザードマップを作 成するか意識させる。 ○見やすいものになるように工夫す る。 ○地図を書くことが難しい児童は 地図アプリなどを使用する。</p> <p>○自分だけでなく、地域で協力して 防災に取り組んで行かなければな らないということを実感させる。</p>	<p>イ① 発表</p> <p>ウ② <u>観察、ノー ト</u></p>
<p>4 次 2 時 間</p>	<p>1. 発表する ① クラスで発表 ② 他学年・地域の方・区役所の職 員の方(ゲストティーチャー)な ど、8で考えたことが実現できる 人に向けて発表 →掲示板に貼ってもらう、配布し に行く</p> <p>2. 振り返り</p>	<p>○外部(地域の自治会、ゲストティ ーチャー)に発表することで自分た ちがまちづくりに貢献しているとい う意識をつける。</p>	<p>イ② <u>発表</u></p>